

サンゴのことをもっと知りたい

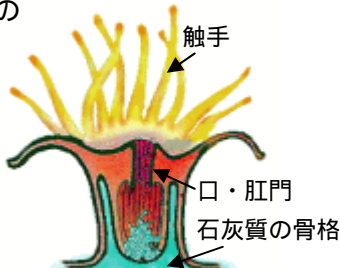


サンゴは一見、植物のように見えますが実は動物です。サンゴはイソギンチャクやクラゲの仲間、刺胞動物（腔腸動物）に含まれます。

サンゴには礁を作る造礁サンゴ（イシサンゴ）と装飾用に使われる本サンゴがあります。造礁サンゴは浅い海にすんで成長が早いのに対して、本サンゴは深い海でゆっくりと成長します。

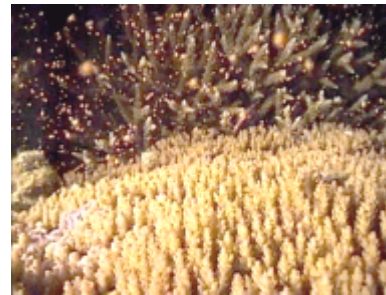
刺胞動物は、口が1つの袋（巾着）状の体をもっていて、口のまわりを触手が取り囲んでいます。

触手には、刺胞という他の動物をとらえるための毒針が入っています。

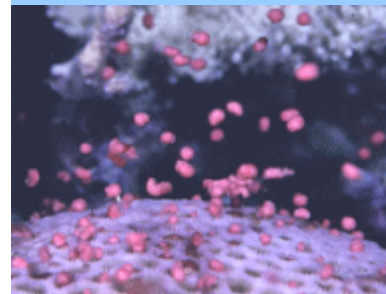


サンゴの断面

初夏の大潮の時期になると、サンゴの一斉産卵が始まります。産卵といっても、よく写真で見ているピンクの卵は、“バンドル”と呼ばれ、直径1mm程度の粒の中に未受精卵と無数の精子がぎっしり詰まっています。

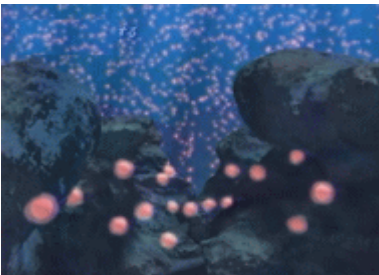


写真の粒々がサンゴの卵（バンドル）

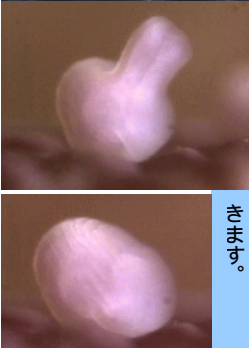


海面に浮かび上がるとバンドルがはじけて、未受精卵は別のバンドルの精子と受精します。受精卵は2〜3日後に繊毛で水中を泳ぐプラナラ幼生になります。

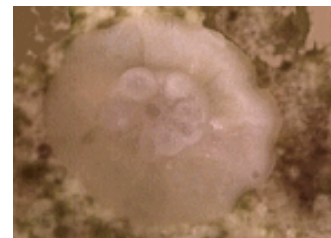
プラナラ幼生は海流に乗って広い地域に漂っていきます。1週間ほどすると海底に沈み泥や砂地でなく固い岩などを選び着床し、変態してポリプとなります。このポリプが、私たちが普通にしているサンゴのかたちです。



写真上/漂うプラナラ幼生
写真中/着生したプラナラ幼生
写真下/着生して30分後
徐々にポリプになっていきます。



サンゴの繁殖はバンドルの卵と精子を介した有性生殖だけではありません。着生したポリプの分裂による無性生殖もおこなえるのが、大きな特徴です。



写真上/ポリプ
写真下/分裂して増えたポリプの群体。
サンゴ礁のかたちになっていきます。



ポリプの無性生殖は、出芽と呼ばれるかたちで、つぎつぎに分身が生まれていきます。無性生殖によって増えたポリプ同士はクローンです。遺伝的に全く同じ性質を持っています。

やがて何千、何万という個体の集まりである群体が形成されていきます。その時、造礁サンゴでは、体の外に石灰分を出して、外骨格をつくりながら群体の形成がおこなわれていきます。

深い海底に棲む本サンゴの仲間では、群体自身がその内部に軸骨と呼ばれる硬い骨格をつくりながら成長していきます。こつした骨格の基底部分は海底の岩に密着しています。

いったんポリプとなったサンゴは、動物でありながら、一生、同じ場所に定着して暮らすこととなります。